

柳田國男、 民俗学者への出発点

北相馬郡利根町布川



「遠野物語」で知られる民俗学者の柳田國男は、13歳から約2年間の多感な少年時代を利根町の布川で過ごしました。この布川の地での生活体験が、のちの民俗学への原点となりました。

國男は兵庫県の生まれですが、長兄の松岡^{かなえ}が布川で開業医をしており、そこに明治20年夏から暮らしたのです。

布川という利根川べりの集落は、好奇心旺盛な國男少年にとっては異次元の世界が展開する不思議な町でした。

ある日、國男は屋敷神の祠の中はどうなっているのだろう？と恐る恐る開けてみました。すると実にきれいな玉が入っていて、それを見た途端に見上げた青空に星が輝いて見えました。その時突然ヒヨドリが「ピー」と鳴いて我に返ったのです。「もしあの時ヒヨドリが鳴かなかつたら、私はあのまま気が変になっていたかも…」と後年、國男は振り返っています。

この不思議体験が、神隠しや異常心理、民間伝承、伝説などへ関心を寄せるきっかけとなったといわれます。

また、現在の利根町役場そばの徳満寺にある「子返しの絵馬」を見て、衝撃を受けました。この絵馬には生まれたばかりの嬰兒を今まさに絞め殺そうという悲惨な場面が描かれています。いわゆる間引きですが、この絵馬には洪水と飢饉に苦しめられた歴史的な背景があることを國男は感じ取っていたのです。

現在、國男が布川で暮らした旧小川家住宅が「柳田國男記念公苑」として一般に公開されており、國男関係の資料や不思議体験した祠などを見ることが出来ます。

日本の民俗学の原点でもある布川で、不思議体験できるかもしれません。

〈参考文献〉新利根川図志下巻(山本鉦太郎著・高書房出版)ほか



【問い合わせ】利根町生涯学習課 TEL0297-68-3263
【所在地】北相馬郡利根町布川1787-1
【アクセス】JR成田線布佐駅徒歩約30分。利根町役場から車で約5分

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>